

## 令和3年度農地中間管理事業に対する評価・意見等

令和4年6月30日（木）開催

項目	評価・意見等
<p>●実績について</p> <p>●これまでの取り組みを踏まえて、今後の事業推進に対する提言、意見など</p>	<p>○令和3年度の機構貸付目標は800haであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県段階では、県関係部局や関係団体との連携会議を開催し、事業推進方針の周知や進捗管理、人・農地プランの実質化に関する情報共有、課題への対応策の検討などに取り組んだ。</li> <li>・市町段階では、市町毎の推進チーム会への参加や市町・振興局へのキャラバン、農業委員等研修会への参加等を通して、意見交換を行いながら、中間管理事業の推進や進捗管理を行うとともに、人・農地プランの実質化に必要な地図化や集落での話し合い、将来方針策定の推進を図った。</li> <li>・市町等で共有している経営規模縮小意向農家等の農地情報を、規模拡大・効率化を進める担い手に紹介しマッチングを図るとともに、土地改良区、中山間直接支払組織・多面的直接支払組織及び産地部会などを中心に、重点対象地区を推進チーム会で選定し、農地中間管理事業を活用した農地の集積を推進した。</li> </ul> <p>など、様々な取り組みの結果、目標を下回ったものの、709haを貸し付けており、概ね目標に近い推進が図られた。</p> <p>1. 農地中間管理事業のPRについて</p> <p>目指す経営モデル（所得目標600万円規模）の実績拡大により、より集約化も進んで集約が進めば所得も上がるといった好循環の流れが期待できるのではないかと。その面も含めて農地中間管理事業のPRを行うべきではないかと。</p> <p>2. 出し手の高齢化等に伴う受け手の確保に係る機構の役割について</p> <p>出し手の高齢化により経営できない農地が加速度的に増えるなか、受け手の育成にも時間を要する実態がある。両者をマッチングにより結びつける機構としてその役割はますます重要となってくるのではないかと。</p>